

## 貧しさに徹したキリスト

馬ぶねの中に

馬ぶねの中に 産声あげ 大工の家に 人となりて  
貧しきうれい 生くる悩み つぶさになめし この人を見よ

食するひまも うちわすれて しいたげられし 人をたずね  
友なきものの 友となりて 心くだきし この人を見よ

すべてのものを 与えしすえ 死のほか何も むくいられで  
十字架のうゑに あげられつつ 敵を赦しし この人を見よ

この人を見よ この人にぞ こよなき愛は あらわれたる  
この人を見よ この人こそ 人となりたる 活ける神なれ

これは私の大好きな賛美歌の一つです。イエス・キリストの生涯を实によく表した歌で、教会でよく歌われています。キリストの生涯は、家畜小屋で産声をあげ、飼い葉おけに寝かされるという最も貧しい誕生で始まりました。貧しさゆえの憂いや哀しさをなめ尽くされました。虐げられている弱い人、貧しい人、孤独な人に寄り添い、心をくだいて慰め、助けました。



(イラスト 加藤喜美子)

そのあげくに社会に混乱を引き起こす危険人物だと十字架刑に処せられてしまいますが、「父よ、彼らをお赦してください」と祈りつつ、生涯を閉じられたのでした。一緒に死刑になった犯罪者の一人が救いを求めると、「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と約束して、一緒に息を引き取られました。

このように貧しさに徹し、寄り添い、共に生き、共に死んでいかれる生涯を送られるお方を、この世の権力は恐れて抹殺しようとしてきました。ここに権力の弱さ、貧しさがあります。キリストは、この権力の弱さ・貧しさを含めて、世の貧しさの一切をわが身に引き

受けて担い、ご自分の命を代償にして、神の赦しと救いをもたらして下さいました。ここにこそまことの愛、神の愛が現れているとこの讃美歌は歌っているのです。

キリストの生涯は、十字架の死で終わりませんでした。驚くべきことが起こったのです。権力を恐れて逃げ散っていた弟子たちが、迫害を恐れぬ者に生まれ変わり、堂々と証をし始めたのです。「あなたがたが十字架につけて殺した方を、神は復活させて救い主となさった」そして遂に、ローマ帝国の皇帝までが信者に改宗し、キリスト教国になってしまったのです。

劉曉波さんのノーベル平和賞受賞に反撥する中国の拒否反応から、言論の自由に対する高圧的態度が露わにされてきました。中国はこれからどうなっていくのでしょうか。私は中国がかつてのローマ帝国と同じ道をたどっていくような気がしてきました。クリスチャンが激増しています。グーグルで検索しますと人口の10%になったとあります。1億3千万人です。

中国は3000年来人口の80%が農村で暮らす社会でした。部落の住民は親密な人間関係の中で暮らし、中国文化を築いてきました。人の目を気にする自己規制が働くので、法意識が育たず、人間関係が重視されます。そこで人脈・汚職・腐敗の社会構造になり勝ちでした。ところが文化大革命の失敗から改革開放政策に転じ、世界の工場と言われるような工業社会に急激に変化しました。近い将来都市人口80%になると言われています。

都市生活は「隣は何をする人ぞ」で人間関係が希薄です。経済的余裕から、自分のやりたいことが出来るようになりました。開放経済(資本主義的経済活動)によって共産主義理念の絶対性が崩れたのです。しかしそれに代る精神的支柱が与えられません。党や政府機関の汚職・腐敗は深まるばかりです。多くの若者たちが心の空白・虚しさを抱くようになりました。そして自分のことだけでなく、他人を配慮し、仕え合って共に生きる愛に惹きつけられて、クリスチャンが急増しているのです。

政府公認の教会は1800万人、非公認の家の教会は5倍以上です。中国は内側から変質して行くことになるでしょう。その鍵は権力にすり寄らず、「馬ぶねの中に」の讃美歌を心から讃美して、家畜小屋で産声をあげ、十字架で死んでいかれた貧しいキリストを我が主として礼拝する教会の信仰の確立にかかっています。神さまの力強い助けと導きを祈って参りましょう。